城東中学校だより

【カラー版を、ホームページに掲載しています】

NO.18　2024.3.4

発行者　城東中学校長

TEL　26－7022

3年生が中学校生活最後の人権学習をしました！

2月21日（水）に、3年生人権の集いを開催しました。第1部では、「部落問題を考える中学生の集い」に参加した6人の生徒からの還流報告を行いました。「部落問題を考える中学生の集いも、城東のつどいも差別をなくす行動の一つ」「無意識であったり無関心であったり、知らないことが差別をする側になってしまう。人権問題を自分に引き寄せていく、自分から引き寄せにいくことが大事だし、学んで知ること理解することが大事だけど、そこで止まらず、それを伝えていかなあかん」「自分事に捉えていくことは自分と照らし合わせていくこと」「差別に対して何も言わないままだとモヤモヤする気もちはなくならないので、自分で言えないときは信頼できるなかまに相談したい」「あきらめずに伝え続けていく」など、中学生の集いで感じた思いを発信しました。なかまの発信を受け止めて、「思いを心で受け止めたい」「差別する側にも受ける側にもなるかもしれないから、自分のために学習していきたい」「大丈夫？と聞かれて、自分も大丈夫じゃないのに大丈夫と答えてしまうことがあるなと思った。大丈夫？じゃなくて寄り添った気もちを伝えたい」「温かい雰囲気のなかで自分の思いを伝えられ、反応が返ってくることが、楽しく温かい雰囲気につながると思いました。自分もそんな雰囲気をつくっていきたい」など、思いをその場で返す生徒がたくさんいました。

第2部では、伊賀市教育委員会生涯学習課に勤務されている川口素生さんから、「すべての人が生きやすい“まち”をめざして」をテーマにお話を聴かせていただきました。川口さんは、市民が人権について学ぶ多くの機会をつくり啓発に取り組まれています。部落差別と向き合い学び続けている識字学級のおばあちゃんや、かかわってきた子どもたちとの出会いをきっかけに、これまでの自分を振り返り自身の心が変容してきたこと。また、差別のない誰もが幸せで生きやすい「まち」にしていきたいという強い思い。そのためにも、差別をなくすなかまをつないでいくことが自分の仕事であると話されました。そして、これからの生き方につながるたくさんのメッセージを伝えてくれました。

【川口さんから卒業生へのメッセージ】

誰にでも、思い込みや偏見、決めつけた見方や考え方がある。こんな自分の心に気づくのが人権学習。自分のことを振り返ることをぜひしてほしい。人との関係のなかでの自分を思い出しながら、行動に移して自分を変えていくことが、“振り返る”自分に矢印を向けられているか。自分を大事にできているか。まわりを大事にできているか。振り返るなかで、自分の価値にも気づいてほしい。自分のことを知ってもらえて、ありのままの自分を受け入れてくれるまちは生きやすい。そんなまちにしていくために自分は学び続ける。知ってもらいたい人に自分のことを伝えていくことも、実はすごく大事。知ってもらえてることが、安心して生活できることにつながる。人とつながるために大事なことは、人の話を聴くこと。聞いてもらえるのって、すごく大事にしてくれてると感じられる。そして、思いを返すことも人とつながるために必要なことだ。みんなのまわりには、差別をなくそうとしている人がいっぱいいる。今、一緒に勉強してる友だち、先生、川口さんもなかまやで。これから、自分では何ともできないことに出会うかもしれないけど、そんなときは相談したらいいんやで。

ピンク色で広がるいじめ防止の輪、「ピンクシャツデー運動」に取り組みました！

「ピンクシャツデー運動」とは、2007年にカナダの高校で始まった運動です。この学校で、ピンクのポロシャツを着て登校した男子生徒がホモセクシャルだとからかわれ、暴行を受けて耐えきれず帰宅しました。このことを知った2人の最終学年生徒が、「いじめなんて、もう、うんざりだ！」「行動しよう！」と、ピンク色のシャツやタンクトップを自費で買うとともに、「明日、一緒に学校でピンクシャツを着よう！」とクラスメートにBBS掲示板や電子メールで呼び掛けました。翌朝、2人は校門で昨日買ったシャツを配ろうとしたところ、ピンク色のシャツやリストバンド、リボン等を身につけた生徒が、呼び掛けた数以上に登校したそうです。このことがメディアで取り上げられ、世界に配信されました。この行動がきっかけで、カナダでは、2月最終水曜を「ピンクシャツデー」として、学校・企業・個人等でピンクシャツを着て、「いじめ反対」の行動を続けているそうです。

城東中学校では、これまで、生徒会の活動として、人権月間である11月にいじめ防止を呼びかける「ピンクマスク運動」などに取り組んできました。また、現2・3年生が1年生のときに、3学期の人権学習で「ピンクシャツデー運動」を知り、そこから自分たちにできることを考え行動することを大切に、2月の最終水曜日に1年生からの呼びかけで全校で「ピンク色で広がるいじめ防止の輪」運動に取り組んできました。

本年度は、生徒会と1年生「ピンクシャツデー運動ヒューマンライツ実行委員会」がコラボレーションした活動として、2月28日（水）に「ピンクシャツデー運動」を実施しました。「先輩たちがつくってくれた、いじめ反対のピンクシャツの掲示物を見て安心できた。城東中学校がだれにとっても安心して過ごせる学校にするために、いじめ反対の意思表示をしていきたい。」という1年生の思いに2・3年生が賛同してくれました。登校時には、生徒会執行部と1年生ヒューマンライツ実行委員が5時間目の取組協力を呼びかけるあいさつ運動をし、生徒会からいじめ反対の意思を表すピンク色のペンが配付されました。5時間目には全校生徒がピンク色の折り紙でTシャツを作り、それにいじめ反対の意思を表すメッセージを書き込みました。後日、このメッセージは大きなTシャツの形に貼りまとめ、生徒玄関へ掲示する予定です。

「みえ森と緑の県民税」を活用した「伊賀の森っこ育成推進事業」による木工製作

城東中学校でも昨年度から、1年生技術科で、「みえ森と緑の県民税」を活用した「伊賀の森っこ育成推進事業」による木工製作を行いました。木工実習で、マルチラックを製作し、木材の特徴や加工方法を学習しました。その後、森林について、保水や河川に過剰な土砂を堆積させない等の治水機能、二酸化炭素を酸素に変える地球温暖化を防ぐ機能、木材を生産する機能、里山が動物や人々の暮らしを豊かにする面等、森林が人々の生活を支えている事について学習するとともに、良質な木材を生産するための間伐の必要性についても学習しました。